

第2期鹿児島市まち・ひと・しごと創生総合戦略
令和6年度実績に係る効果検証結果 総括表

検証会議の意見（施策に対する評価）

- A：引き続き、現状の取組を推進すべきである
- B：全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある
- C：取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

検証会議による検証結果

積極・適応戦略		1 稼げるしごとで活力を「つくる」	2 結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」	3 ひとが集うまちの魅力を「みがく」	4 ひと・まちを多彩に「つなぐ」	重点戦略			合計
						1 “世界に選ばれるまち KAGOSHIMA” 推進プロジェクト	2 “次代につながるふるさと担い手” 創出プロジェクト	3 “デジタル技術で豊かなまち” 創造プロジェクト	
施策に対する評価	A	5	8	3	8	0	2	5	31
	B	0	1	2	1	1	0	0	5
	C	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		5	9	5	9	1	2	5	36

KPIの評価

- a：十分に達成されている
- b：概ね達成されている
- c：あまり達成されていない

(参考) KPIの評価

積極・適応戦略		1 稼げるしごとで活力を「つくる」	2 結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」	3 ひとが集うまちの魅力を「みがく」	4 ひと・まちを多彩に「つなぐ」	重点戦略			合計
						1 “世界に選ばれるまち KAGOSHIMA” 推進プロジェクト	2 “次代につながるふるさと担い手” 創出プロジェクト	3 “デジタル技術で豊かなまち” 創造プロジェクト	
KPIの評価	a	3	5	3	7	0	2	3	23
	b	2	1	0	2	1	0	2	8
	c	0	3	2	0	0	0	0	5
合計		5	9	5	9	1	2	5	36

○ KPIの評価は、内部基準に基づく絶対評価である。

No.	積極戦略	主な施策	重要業績評価指標 (KPI)	KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価		検証会議の意見	評価																	
				施策の進捗状況等 (R6)	今後の方向性(考え方)																			
4	1 稼げるし ことで活力を 「つくる」	(2) 魅力的で安定した雇用の場の確保 ① 企業立地の推進 <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値</th> <th>目標値 (R8)</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(R2)</td> <td>8</td> <td>件 (5年間)</td> </tr> </tbody> </table>	基準値	目標値 (R8)	単位	(R2)	8	件 (5年間)	企業立地件数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>実績値 (R6)</th> <th>対目標値</th> <th>評価 (R6)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>27</td> <td>67.5%</td> <td>a</td> </tr> </tbody> </table>	実績値 (R6)	対目標値	評価 (R6)	27	67.5%	a	KPIについては、十分に達成されている。 R6年度の取組状況としては、首都圏における展示会へのブース出展やプレスリリース配信サービスを用いた企業立地促進補助制度のPR、市外企業に対するオンライン面談の活用、市内企業に対する訪問など、企業立地を推進する活動を積極的に行った。 また、連携中枢都市圏構成市で連携したPRや、立地企業の雇用確保を支援するためのハローワークと連携した立地企業の企業説明会、職場見学会などを実施した。	引き続き、積極的な企業訪問等を行い、補助制度や都市の魅力など本市の強みをPRし、企業立地のさらなる推進を図るとともに、フォロー訪問による情報交換等を通じて状況把握や雇用確保への支援を行う。 また、連携中枢都市圏の構成市及び県との連携を図りながら企業立地を推進する。	KPIについては、企業立地の推進に向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、企業訪問や補助制度のPRを継続するとともに、テレワーク環境の整備や、連携中枢都市圏の各自治体、県との連携強化を図るほか、企業立地に向けた地区や産業の指定についても検討していただきたい。	A					
基準値	目標値 (R8)	単位																						
(R2)	8	件 (5年間)																						
実績値 (R6)	対目標値	評価 (R6)																						
27	67.5%	a																						
5	1 稼げるし ことで活力を 「つくる」	(2) 魅力的で安定した雇用の場の確保 ② 若者、女性、高齢者等の就労支援 <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値</th> <th>目標値 (R8)</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(R2)</td> <td>12</td> <td>件 (5年間)</td> </tr> <tr> <td>(R2)</td> <td>273</td> <td>1,365 人 (5年間)</td> </tr> </tbody> </table>	基準値	目標値 (R8)	単位	(R2)	12	件 (5年間)	(R2)	273	1,365 人 (5年間)	連携中枢都市圏合同企業説明会での採用者数 本市の奨励金を活用して雇用される人数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>実績値 (R6)</th> <th>対目標値</th> <th>評価 (R6)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28</td> <td>46.7%</td> <td rowspan="2">b</td> </tr> <tr> <td>716</td> <td>52.5%</td> </tr> </tbody> </table>	実績値 (R6)	対目標値	評価 (R6)	28	46.7%	b	716	52.5%	KPIについては概ね達成されている。 R6年度の取組状況としては、雇用奨励金など本市の助成金を活用し障害者や高齢者等の雇用推進を図ったほか、連携中枢都市圏合同企業説明会を半日開催から一日開催に変更し、参加企業数を増やすことで、若年者の雇用機会の拡大を図った。 また、経営者・管理職向けのセミナーや女性を対象とした職場見学会、就活応援講座を実施するなど、女性活躍の意義についての理解を深め、その取組を促進した。	引き続き、労働局等の関係機関とも連携を図りながら、若い世代をはじめ、女性や高齢者等の就労促進に努める。 また、経営者・管理職向けのセミナーや女性のためのキャリアデザインセミナーを継続的に実施し、女性の活躍促進に取り組むとともに、関係部署とも連携を図りながら、女性が働きやすい環境整備に努める。	KPIについては、若者、女性、高齢者等の就労支援に向けて、概ね達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、雇用後のフォローアップ調査を継続し、若者、女性、高齢者等の雇用ミスマッチの解消に向けた現状把握と対策を行うとともに、子育て世代の就労支援として高齢者の地域教育人材としての活用や、障害者雇用を行う小規模事業者への支援の充実についても検討していただきたい。	A
基準値	目標値 (R8)	単位																						
(R2)	12	件 (5年間)																						
(R2)	273	1,365 人 (5年間)																						
実績値 (R6)	対目標値	評価 (R6)																						
28	46.7%	b																						
716	52.5%																							

積極戦略2 結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」

<摘要>
 (1) 評価 (KPI)
 a : 十分に達成されている
 b : 概ね達成されている
 c : あまり達成されていない

(2) 検証会議の意見
 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである
 B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある
 C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

No.	積極戦略	主な施策	重要業績評価指標 (KPI)	KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価		検証会議の意見	評価												
				施策の進捗状況等 (R6)	今後の方向性(考え方)														
6	2 結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」	(1) 若い世代の経済的安定 ① 若者の就業支援	鹿児島公共職業安定所(ハローワークかごしま)管内の新規学卒者の県内就職率 <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値</th> <th>目標値 (R6)</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(R2) 65.1</td> <td>66.6</td> <td>%</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>実績値 (R6)</th> <th>対目標値</th> <th>評価 (R6)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>60.7</td> <td>-293.3%</td> <td>c</td> </tr> </tbody> </table>	基準値	目標値 (R6)	単位	(R2) 65.1	66.6	%	実績値 (R6)	対目標値	評価 (R6)	60.7	-293.3%	c	KPIについては、あまり達成されていない。 これは新型コロナウイルスの影響で、R2年度以降若者の県内就職志向が高まっていたものの、R5年度から5類へ移行し、若者の県外就職が増加してきており、要因としては、地元企業の魅力が十分に伝わっていないこと、都市部の企業が給与面等で魅力的に感じられること、女性や若者が活躍できる職場環境づくりが十分でないこと等が考えられる。 R6年度の取組状況としては、高校生を対象とした就職セミナーや大学生に向けた地元企業の魅力発信、学生等を対象とした起業セミナーや起業家による出前講座の開催など、若者の就業支援、起業支援に着実に取り組んできた。	引き続き、若者の就業支援、起業支援に取り組み、若者の職場定着について、関係機関と連携を図りながら状況把握に努め、職場定着に関する国の助成金の広報など、連携した取組を進めていくとともに、高校生や新就職者を対象に開催するセミナー等により、勤労観・職業観の醸成を図る。 また、人材の市外流出を抑制するため、働き手の実情に応じた多様で柔軟な働き方を促進する取り組みを後押しするとともに、市内事業所における人材確保・定着につながる支援を行う。	KPIについては、地元企業の魅力が十分に伝わっていないこと、都市部の企業が給与面等で魅力的に感じられること、女性や若者が活躍できる職場環境づくりが十分でないこと等により、あまり達成されていない。全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある。 施策の推進にあたっては、若者の雇用ミスマッチの解消に向けて、高校生ステップアップセミナー等の継続とフォローアップに努めるとともに、市内事業所での人材定着支援を進めるほか、職場体験や企業説明会の充実を図ることで、地元企業への理解を促進する必要があり、Uターン人材の呼び戻しにつなげることも重要である。 また、KPIについては、一つの案として、取組の結果としての就職率だけでなく、市が行う取組に係るKPIについても追加してはどうか。	B
基準値	目標値 (R6)	単位																	
(R2) 65.1	66.6	%																	
実績値 (R6)	対目標値	評価 (R6)																	
60.7	-293.3%	c																	
7	2 結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」	(1) 若い世代の経済的安定 ② 貧困の世代間連鎖の解消	就労支援した若者等の就職者数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値</th> <th>目標値 (R6)</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(R2) 89</td> <td>545</td> <td>人 (5年間)</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>実績値 (R6)</th> <th>対目標値</th> <th>評価 (R6)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>173</td> <td>31.7%</td> <td>c</td> </tr> </tbody> </table>	基準値	目標値 (R6)	単位	(R2) 89	545	人 (5年間)	実績値 (R6)	対目標値	評価 (R6)	173	31.7%	c	KPIについては、あまり達成されていない。 これは、新型コロナウイルス感染症の影響により失業率が高まり、就労支援の要請件数が増加するものと想定していたが、外出制限や対面制限によりハローワークにおける就労支援対象者に対する個別面談件数が減少し就職に結びつかなかったと考えられる。一方、令和5年より5類に分類され、その後の就職者数は増加傾向にあり、基準値である令和2年度水準まで回復傾向にある。(R4:30名、R5:64名、R6:79名) R6年度の取組状況としては、「生活・就労支援センターかごしま」内の生活自立支援センターとハローワーク窓口の連携により、若者等への就労支援をワンストップで行ったほか、生活困窮世帯・ひとり親家庭等の小学4・5・6年生及び中学生への学習支援(学習会)を、大学生や教員OB等と協力して実施した。 母子家庭等自立支援事業では、医療事務、調剤薬局事務講座の実施や、ひとり親家庭等相談会で就労相談等を行い、就業支援を図った。 かごしま子ども応援ネットワーク推進事業では、ホームページの開設及び勉強会の開催により、子どもを支援する活動の促進に努めた。 こどもの未来応援条例推進事業では、条例の広報・周知啓発を図り、子どもを社会全体で守り育てるという気運の醸成に努めた。	「生活・就労支援センターかごしま」によるワンストップでの支援体制を充実するとともに、引き続き、関連施策の広報・周知を進め、関係機関と連携し、取組の推進を図っていく。生活困窮者等の就労状況についても、引き続き、追跡調査を実施する。 母子家庭等自立支援事業で実施する講習会については、ひとり親家庭や企業双方でニーズの高い資格を把握し、ひとり親の就業促進を図るため、講座内容の検討を行う。 「鹿児島市こどもの未来応援条例」について、引き続き周知・啓発に取り組む。	KPIについては、新型コロナウイルス感染症の影響による外出制限や対面制限により、ハローワークにおける就労支援対象者に対する個別面談件数が減少し、就職に結びつかなかったことなどから、あまり達成されていない。一方、令和5年度より5類に分類され、その後の就職者数は増加傾向にあり、基準値である令和2年度水準まで回復傾向にあることから、引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、ひとり親家庭や就労困難者への支援をさらに充実させながら、引き続き、引きこもり状態の人やヤングケアラーにも目配りするとともに、長期休暇中の子どもの食支援や就労困難者への精神的支援も検討するほか、KPIの達成率が低調な要因分析を継続し、講座の内容や開催方法の工夫を通じて自立支援の実効性を高めるべきである。	A
基準値	目標値 (R6)	単位																	
(R2) 89	545	人 (5年間)																	
実績値 (R6)	対目標値	評価 (R6)																	
173	31.7%	c																	

No.	積極戦略	主な施策	重要業績評価指標 (KPI)	KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価		検証会議の意見	評価																								
				施策の進捗状況等 (R6)	今後の方向性(考え方)																										
8	2 結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」	(2) 結婚の希望の実現 ① 次世代を担う若者のライフプランニング支援 <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値</th> <th>目標値 (R8)</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(R2)</td> <td>655</td> <td>4,500 人 (5年間)</td> </tr> </tbody> </table>	基準値	目標値 (R8)	単位	(R2)	655	4,500 人 (5年間)	ライフデザインセミナー参加者数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>実績値 (R6)</th> <th>対目標値</th> <th>評価 (R6)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2,893</td> <td>64.3%</td> <td>a</td> </tr> </tbody> </table>	実績値 (R6)	対目標値	評価 (R6)	2,893	64.3%	a	KPIについては、十分に達成されている。 R6年度の取組状況としては、大学等と連携してライフデザインセミナーを開催し、次世代を担う若者に対し、今後のライフデザインを描けるように意識啓発に取り組んだ。 また、高校生を対象にしたライフデザインセミナーにおいては、R6年度からの新たな取組組として、開催高校の卒業生による仕事、出産、子育て等の講話を実施するなど、取組の充実を図った。なお、いずれの取組も男女共同参画の視点や人生の選択は個人の自由によるもので、一定の価値観を押し付けることのないように配慮し実施した。	引き続き、幅広い若年層等へのライフプランニング支援に努めるなど、結婚、妊娠、出産、子育てに対する気運の醸成に取り組んでいく。	KPIについては、次世代を担う若者のライフプランニング支援に向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、妊娠・出産に対する男性の理解促進に向けて、引き続き、若年層を対象としたセミナーの開催などに取り組んでいただきたい。	A												
基準値	目標値 (R8)	単位																													
(R2)	655	4,500 人 (5年間)																													
実績値 (R6)	対目標値	評価 (R6)																													
2,893	64.3%	a																													
9	2 結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」	(2) 結婚の希望の実現 ② 結婚への支援 <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値</th> <th>目標値 (R8)</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(R2)</td> <td>86.1</td> <td>90.0 % (毎年度)</td> </tr> <tr> <td>(R4)</td> <td>543</td> <td>750 人</td> </tr> </tbody> </table>	基準値	目標値 (R8)	単位	(R2)	86.1	90.0 % (毎年度)	(R4)	543	750 人	婚活事業への参加者の満足度 結婚相談所の登録者数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>実績値 (R6)</th> <th>対目標値</th> <th>評価 (R6)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>85.7</td> <td>95.2%</td> <td>b</td> </tr> <tr> <td>470</td> <td>-35.3%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	実績値 (R6)	対目標値	評価 (R6)	85.7	95.2%	b	470	-35.3%		KPIについては、概ね達成されている。 R6年度の取組状況としては、出会いの場の提供のために、参加者アンケートの結果等を参考にマジックや花火などをテーマにした小規模出会いイベントや、謎解きをテーマにした大規模出会いイベントを開催するとともに、企業・団体を母体とした交流会を引き続き実施し、結婚を希望する方へ新たな出会いの場を提供した。結婚相談所においては、マリーサポートカフェや、所員のスキルアップ研修、婚活アドバイザーによる専門相談サービスを実施したほか、R6年度からは、新たに、AIマッチングシステムを導入し、結婚を希望する男女の支援の充実を図った。登録者数は減少しているものの、婚約成立数は増加している。 また、市営住宅の入居者募集時に、新婚世帯等への優遇措置を講じるとともに、結婚新生活スタートアップセミナーを開催し、結婚新生活への支援に努めた。	出会いの場の提供については、引き続き、より効果的な方法等を検討し、各種イベントを開催するなど、積極的に取り組むほか、企業・団体間交流・出会いサポート事業は、企業等への働きかけを強化し、登録団体の増を図る。結婚相談所については、登録者数や婚約成立数の増加に向け、さらなる周知広報や、AIマッチングシステムの活用による登録者の利便性向上に取り組み、結婚を希望する方の婚活をサポートする。 また、今後も引き続き、新婚世帯等の市営住宅への入居支援や、スタートアップセミナーの参加者の増に向け、効果的な広報・周知等を検討する。	KPIについては、結婚への支援に向けて、概ね達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、引き続き、結婚相談所におけるオンライン対応の充実等を通じて、利用者の利便性向上に努めていただきたい。 また、KPIについては、一つの案として、人口が減る中で登録者数を増やすことは難しい面があるため、成立組数の割合とするなど、より実態に即した指標への見直しを検討してはどうか。	A						
基準値	目標値 (R8)	単位																													
(R2)	86.1	90.0 % (毎年度)																													
(R4)	543	750 人																													
実績値 (R6)	対目標値	評価 (R6)																													
85.7	95.2%	b																													
470	-35.3%																														
10	2 結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」	(3) 妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援 <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値</th> <th>目標値 (R8)</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(R2)</td> <td>97.8</td> <td>100.0 %</td> </tr> <tr> <td>(R4)</td> <td>6,574</td> <td>12,174 人</td> </tr> </tbody> </table>	基準値	目標値 (R8)	単位	(R2)	97.8	100.0 %	(R4)	6,574	12,174 人	乳幼児健康診査の受診率 母子健康手帳アプリの登録者数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>実績値 (R6)</th> <th>対目標値</th> <th>評価 (R6)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>98.1</td> <td>98.1%</td> <td>a</td> </tr> <tr> <td>11,388</td> <td>86.0%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	実績値 (R6)	対目標値	評価 (R6)	98.1	98.1%	a	11,388	86.0%		KPIについては、十分に達成されている。 R6年度の取組状況としては、子育て世代包括支援センターからこども家庭センター(母子保健機能)の体制整備後も、母子保健支援員や発達支援専門員の配置を行うなど、センターとしての機能の強化を図ってきた。 また、妊娠前から出産・子育てまで一貫して身近で相談に応じ、必要な支援につなぐ併走型相談支援の充実と出産・子育て応援金給付による経済的支援を一体的に実施する出産・子育て応援事業を実施し、安心して出産・子育てができるような環境づくりを推進した。 さらに、妊産婦のメンタルケアとして、産婦健診や産婦支援小児科連携により支援の必要な対象者を地域へつなぐ体制を整えたほか、不妊治療、不育症治療に対する助成を行った。加えて母子健康手帳アプリ「まぐまごアプリ」を運用しており、令和6年7月からは「オンライン予約サービス」の機能を追加し、事業申込みや相談予約の利便性を向上させた。 これらの取組により、妊娠、出産、子育ての切れ目のない支援の充実が図られた。	R6年度より母子保健機能と児童福祉機能の連携強化を目的に子育て世代包括支援センターからこども家庭センター(母子保健機能)へ変更した。今後は更に関係機関と連携を図り、妊娠期からの相談支援、産後の健康診査や産婦支援小児科等相談を実施するなどして実情の把握に努め、地域での切れ目のない支援の充実に取り組む。 これまで同様、妊娠期から子育て期におけるハイリスク家庭の把握及び支援の充実、訪問指導時の問診票等使用によるハイリスク家庭の把握に努め、産科、精神科、小児科等と連携し、支援を行う。また、不妊専門相談センターによるさらなる相談支援の充実を図るほか、引き続き不妊治療の保険診療に係る自己負担について助成を行い、母子健康手帳アプリ「まぐまごアプリ」の運用を行う。 妊娠・出産への支援に加え、子どもの成長・発達に対する不安を軽減できるように、乳幼児健診の受診率の向上を図る。	KPIについては、妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援に向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、乳幼児健康診査の未受診者へのフォローアップを引き続き実施するとともに、結婚・出産・子育てとつなぐライフプランに合わせた企業の支援体制への整備を推進し、若者の地元定着率の向上にもつなげていただきたい。	A						
基準値	目標値 (R8)	単位																													
(R2)	97.8	100.0 %																													
(R4)	6,574	12,174 人																													
実績値 (R6)	対目標値	評価 (R6)																													
98.1	98.1%	a																													
11,388	86.0%																														
11	2 結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」	(4) 子育て支援の充実 ① 子育て支援施設の整備・充実 <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値</th> <th>目標値 (R8)</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(R3)</td> <td>82</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>(R3)</td> <td>94.9</td> <td>100.0 %</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>170,200</td> <td>件</td> </tr> </tbody> </table>	基準値	目標値 (R8)	単位	(R3)	82	0 人	(R3)	94.9	100.0 %	-	170,200	件	保育所等の待機児童数 保育所等への入所率 子育て情報チャットボットへのアクセス件数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>実績値 (R6)</th> <th>対目標値</th> <th>評価 (R6)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>100.0%</td> <td>a</td> </tr> <tr> <td>92.3</td> <td>92.3%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>18,589</td> <td>10.9%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	実績値 (R6)	対目標値	評価 (R6)	0	100.0%	a	92.3	92.3%		18,589	10.9%		KPIについては十分に達成されている。 R5.4時点における保育所等の待機児童数はR4.4の136人から115人減の21人と大きく減少した(R6.4時点では0人を達成)。保育所等への入所率は年度末にかけて利用が増える0歳児を除き、市全体で100%を超えている。 R6年度の取組状況として、地域子育て支援拠点施設については、城西地区及び谷山北部地区に新たな地域子育て支援センターを設置し、配置見直しに基づく事業公募を行い、地域子育て支援の充実を図った。 また、安全な教育・保育環境の充実を図るため、引き続き、認可外保育施設への巡回支援指導や保育所等における感染症拡大防止のための支援を行い、利用児童の安全確保及び保育環境の改善、継続的な事業実施のための環境整備に努めた。 就学前児童の待機児童対策においては、第二期鹿兒島市子ども・子育て支援事業計画(令和5年3月 第5章改定版)に基づき、840人分の保育の受け皿確保に向けて保育所等の整備などに取り組み、2・3号児童395人分を確保した。(開所・定員増はR6.4付) また、保育士等の安定的確保や職場定着等を図るため、就職奨励金の給付など、これまでの取組に加え、民間保育士等処遇改善補助金の創設や保育士等奨学金返済補助金の拡充を行った。 さらに、子育て支援関連情報の問い合わせに24時間365日対応するAIチャットボットを運用し、子育て世帯等の利便性向上を図った。	子育て支援施設の整備・充実については、第二期鹿兒島市子ども・子育て支援事業計画(令和5年3月 第5章改定版)に基づき、既存施設を活用した利用定員の拡大及び保育所等の整備を進めるほか、さらなる保育士等の安定的確保や職場定着等を図るため、本市独自の民間保育士等の処遇改善や、ICT導入に係る補助などによる業務負担軽減などに取り組み、引き続き、保育の受け皿と保育士等の確保を一体的に進めていく。 加えて、令和7年度以降の次期計画について、待機児童数ゼロを安定的に維持していくための対策を盛り込めるよう検討を進めていく。 地域子育て支援拠点施設については、施設職員のスキルアップや施設間の連携を図り、子育て親子の交流の促進等を行うほか、市内13地域への地域子育て支援センターの設置に向けて取り組むなど、よりきめ細やかな支援体制の充実にも努める。 KPI/AI等の導入による子育て世帯等の利便性向上については、目標値と実績値に大きな乖離があることから、目標値の見直しを検討する。	KPIについては、子育て支援施設の整備・充実に向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、保育所サービスの質的均質化を考慮するとともに、保育士の処遇改善を継続し、待機児童ゼロや保留児童数の減少といった成果を踏まえ、きめ細かな対応を維持するほか、AIチャットボットの活用についてはそのメリットと限界を十分に考慮し、周知方法を改めて検討するなど、利用者の利便性向上を図っていただきたい。	A
基準値	目標値 (R8)	単位																													
(R3)	82	0 人																													
(R3)	94.9	100.0 %																													
-	170,200	件																													
実績値 (R6)	対目標値	評価 (R6)																													
0	100.0%	a																													
92.3	92.3%																														
18,589	10.9%																														

No.	積極戦略	主な施策	重要業績評価指標 (KPI)	KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価		検証会議の意見	評価
				施策の進捗状況等 (R6)	今後の方向性(考え方)		
12	2 結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」	(4) 子育て支援の充実 ② 放課後における児童の健全育成	児童クラブの待機児童数 運営時間に占める児童の育成支援に関わる時間の割合	児童クラブの待機児童数のKPIについては、あまり達成されていない。児童クラブについては、就学児童数が減少している一方で共働き家庭の増加等により利用希望が年々増加しており、一部の校区において4年生以上の高学年に待機児童が発生している。R6年度の取組状況としては、新たなクラブの整備等による受け皿確保のほか、あわせて、そこで働く支援員等への処遇改善や人材確保につながる取組を行った。 新・郷中教育推進事業では、年次計画に基づき、市内78校中72校で放課後子ども教室を実施した。 ICTを活用した児童クラブの支援の質の向上のKPIについては、概ね達成されている。R6年度の取組状況としては、保護者の利便性向上や支援員等の業務負担軽減を図るためのシステムの導入のほか、児童のタブレット端末を活用した学習を支援するためのインターネット環境の強化を行った。	児童クラブの待機児童解消に向け、校区ごとの需要予測の精度を高め、一つのクラブで近隣の複数校区をカバーする民間児童クラブの設置などによる受け皿確保のほか、支援員等の処遇改善など人材確保につながる取組を進めていく。あわせて、6年度に導入したシステム等の活用により、支援員等の業務負担軽減や児童の学習環境の向上を図り、児童クラブの支援の質の向上に向けた取組を進めていく。 新・郷中教育推進事業では、各小学校に放課後子ども教室を開設できるよう努め、今後も、充実した学習や体験・交流活動等に取り組み。	KPIのうち児童クラブの待機児童数については、あまり達成されていないが、これは、共働き家庭の増加等により利用希望が年々増加していることなどによるものであり、引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、児童クラブの支援員の確保と処遇改善を継続するとともに、軽度の障害をもつ児童への放課後ケアの充実や、地域の高齢者教育人材の活用の可能性等を検討するほか、市全体の児童クラブとの連携を通じて、ヤングケアラーや家庭環境の把握にも努めていただきたい。	A
13	2 結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」	(4) 子育て支援の充実 ③ 子育て世帯への経済的支援	出生数に占める第3子以降の割合	KPIについては、十分に達成されている。 R6年度の取組状況としては、子どもの保護者に対し、医療費の一部を助成するとともに、令和7年4月より助成方法を現物給付にし、中学3年生までの自己負担額をゼロとすることとした。 また、多子世帯への経済的負担軽減を図るとともに、保育所等を利用している3～5歳及び住民税非課税世帯の0～2歳の保育料の無償化を継続したほか、就学・通学の援助、奨学資金の貸付による保護者の経済的負担軽減や子育て世帯の住替費用の補助を行った。 これらの取組により、子育て家庭の生活の安定に向けた経済的支援を図った。	今後も引き続き、子育て世帯の経済的負担軽減に努めるとともに、子育て世帯向けの市営住宅の整備を行う。 また、県の補助制度である「こども医療費」「ひとり親家庭医療費」「重度心身障害者医療費」の県単3医療費助成制度に関して、助成対象年齢の拡大や自己負担額の軽減、給付方法の見直し等について引き続き県へ要望していく。	KPIについては、子育て世帯への経済的支援に向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。	A
14	2 結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」	(5) 仕事と子育ての両立	男女共同参画センターにおけるワークライフバランスをテーマとしたセミナー等の受講者数 SNSで発信した男女共同参画に関する情報の閲覧数	KPIについては、十分達成されている。 R6年度の取組状況としては、男女共同参画情報誌やワークライフ・バランス推進のためのチラシの作成・配布、男女共同参画情報をSNSで発信し、ワークライフ・バランスの広報啓発を図ったほか、市内の事業所に対し、WLB推進アドバイザーを派遣し、具体的な取組支援を行った。 また、イクボス推進会議並びにこどもまんなかアクションリレーシンポジウムin鹿児島市をこども家庭庁と共催で行い、ワークライフ・バランスに関する先進事例の紹介や、他企業の取組情報の共有を行ったほか、「イクボスアワード」(R6年度受賞:2社)を表彰するなど、仕事と子育ての両立のための機運の醸成やイクボス推進同盟加盟企業・団体数の増加に努めた。 なお、R6年度から新たに、子育て中の親が独自の工夫・アイデアで積極的に子育てを行い、それを地域や職場が応援し、社会全体で子どもを育てている好事例を「輝く★子育てアワード」(R6年度受賞:2者)として表彰し、その事例等を広く紹介した。 これらの取組により、仕事と子育ての両立のための意識啓発及び環境整備が図られた。	ワークライフ・バランスの推進について、引き続き、男女共同参画情報誌やSNS、労政広報紙等による周知・啓発に努めていくとともに、働き手の実情に応じた多様で柔軟な働き方を促進する取り組みを後押しする。 また、引き続きイクボス推進同盟の参加企業・団体の増加や共働き・子育ての推進に努めるとともに、仕事と子育ての両立のための意識啓発及び環境整備を図っていく。	KPIについては、仕事と子育ての両立に向けて十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、イクボス推進同盟の参加企業・団体の拡大や意識啓発、環境整備を進めるほか、女性の管理職登用の進捗状況など、実際の職場における男女共同参画の現状を把握し、原因分析と対応策の検討を行っていただきたい。	A

積極戦略3 人が集うまちの魅力を「みがく」

<概要>
 (1) 評価 (KPI)
 a : 十分に達成されている
 b : 概ね達成されている
 c : あまり達成されていない

(2) 検証会議の意見
 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである
 B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある
 C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

No.	積極戦略	主な施策	重要業績評価指標 (KPI)	KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価		検証会議の意見	評価		
				施策の進捗状況等 (R6)	今後の方向性(考え方)				
15	3 ひとが集うまちの魅力を「みがく」	(1) 個性豊かな資源の価値向上 ① オンリーワンの魅力創出	1人1泊当たりの観光消費額 KX鹿児島体験ムービーの視聴回数	実績値 (R6) 24,100 対目標値 -213.6%	評価 (R6) c	KPIについては、あまり達成されていない。 これは、観光関連業界の人手不足による観光需要の取りこぼしや、観光消費単価の高い外国人観光客の回復の遅れなどにより観光消費額が伸び悩んでいるものと考えられる。また、施設等の利用者向けサービスである「KX鹿児島体験ムービー」の視聴回数が減っているのは、猛暑など厳しい気候状況等の影響による平川動物公園の来場者数の減が主な要因と考えられる。 R6年度の取組状況としては、桜島・錦江湾ジオパークの魅力・特性を生かしたジオツアーや首都圏の飲食店と連携した食の都がこしまフェアなど、自然や食などの魅力を活用した取組をはじめ、桜島における新たな自然体験型観光施設の導入に向けた基本計画の策定、かごしま錦江湾サマーナイト大花火大会や鹿児島マラソンの開催などに取り組んだ。また、平川動物公園遊園地・錦江湾公園の一体的利用に係る基本構想策定に向けた取組など、観光施設の魅力づくりに取り組んだ。さらに、企業版ふるさと納税を活用したスポーツ施設の整備やスケートボード等専用施設の整備に向けた基本構想を策定するとともに、eスポーツの推進につながるイベントを実施した。 これらの取組により、本市の特性を生かしたオンリーワンの魅力創出を図った。	本市の個性豊かな資源の価値向上を図るため、引き続き、オンリーワンの魅力創出に向けた取組を進める中で、新たに、鹿児島ファンの拡大に向けて、首都圏で鹿児島の特産品等を使ったプロモーションの展開等に取り組むほか、世界ジオパーク認定に向けて、始良市・垂水市と連携し、ジオパーク活動の充実を図るとともに、平川動物公園遊園地・錦江湾公園の一体的利用など、施設の魅力向上を図るための基本構想策定、維新ふるさと館の展示物等のリニューアル基本・実施設計、鹿児島アリーナのリニューアル改修基本・実施設計、スケートボード等専用施設整備に係る実施設計、西郷隆盛生誕200年・没後150年記念プロジェクト推進事業等を実施するなど魅力向上を図る。また、市民団体等と協働して世界文化遺産登録10周年記念イベント等を実施する。	KPIについては、観光関連業界の人手不足による観光需要の取りこぼしや、観光消費単価の高い外国人観光客の回復の遅れなどにより観光消費額が伸び悩んでいること、猛暑など厳しい気候状況等の影響による平川動物公園の来場者数の減などにより、あまり達成されていない。全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある。 施策の推進にあたっては、観光客の回復を見据え、SNSの充実やストーリー性ある観光ルートの開発、サブカルチャーや歴史資源の活用などにより鹿児島県の魅力を発信するほか、宿泊日数の延長や付加価値の高い体験の提供、人手不足への対応としてDXや観光中核人材の確保・育成など、具体的で実効性ある取組を進めるべきである。 また、KPIについては、一つの案として、気象状況等によって左右されないKPIの設定を検討してはどうか。	B
16	3 ひとが集うまちの魅力を「みがく」	(1) 個性豊かな資源の価値向上 ② 地域特性を生かした創造性豊かな景観の形成・活用	景観形成に向けて開催したイベント等に参画した市民の数	実績値 (R6) 467 対目標値 62.3%	評価 (R6) a	KPIについては、十分に達成されている。 R6年度の取組状況としては、景観まちづくりに興味のある市民等を対象に、景観まちづくり市民教室を開催するとともに、小山田小において、景観まちづくり学習の開催や児童が作成したパネルの展示等を行い、景観に対する意識の高揚等を図った。 また、まちなか夜間景観形成事業において、歴史景観エリアの夜間景観基本計画の策定等を行い、新たなにぎわい創出や愛着と誇りが持てる夜間景観の形成を図るための取組を進めた。	引き続き、鹿児島県の特性を生かした景観形成の促進を図るために、意識の高揚を目的とした、市民や地域住民等との協働による取組を進める。 また、歴史景観エリアや水辺景観エリアにおいて、新たなにぎわい創出や愛着と誇りが持てる夜間景観の形成を図るために、基本計画の策定等の取組を進める。	KPIについては、地域特性を生かした創造性豊かな景観の形成・活用に向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、景観計画の策定では、住民との連携等が不可欠となることから、活発な議論を進めるほか、桜島の観光スポットの充実に取り組んでいただきたい。	A
17	3 ひとが集うまちの魅力を「みがく」	(1) 個性豊かな資源の価値向上 ③ 花や緑、公園緑地の充実	市民1人当たりの都市公園面積	実績値 (R6) 8.11 対目標値 105.0%	評価 (R6) a	KPIについては、十分に達成されている。 R6年度の取組状況としては、武岡公園の整備に向けた用地取得等を行ったほか、街路樹の植替や軌道敷緑化の維持管理、街路樹再生プランの策定等を行うとともに、緑化推進イベントの開催や甲突川の桜並木の再整備を行うための基本計画策定に向けた検討を行うなど、協働による緑化活動の促進や、開発行為に伴い整備された公園の開設による身近な公園等の創出を行った。 これらの取組により、花や緑、公園緑地が充実し、個性豊かな資源の価値向上が図られた。	個性豊かな資源の価値向上を図るため、引き続き、武岡公園の整備や街路樹再生プランに基づく街路樹の植替等による緑の快適環境の整備等を行うほか、甲突川の桜並木の再整備に向けた取組を行うなど、花や緑、公園緑地の充実に取り組む。	KPIについては、花や緑、公園緑地の充実に向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、都市公園の面積や人口動向を踏まえた評価を行うとともに、緑地整備や樹木のメンテナンス、作業者の健康管理などを行うほか、武岡公園の迅速な整備を行い、地域の安全・快適性、経済的価値の向上を図っていただきたい。	A

No.	積極戦略	主な施策	重要業績評価指標 (KPI)	KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価		検証会議の意見	評価																								
				施策の進捗状況等 (R6)	今後の方向性(考え方)																										
18	3 ひとが集うまちの魅力 を「みがく」	(2)ひとが集うまちなか環境の充実 ① 観光客受入体制の充実	知人に鹿児島市への旅行を勧めたい 観光客の割合	<p>KPIについては、あまり達成されていない。 これは、タクシーの減車やバスの減便など、観光関連業界の人手不足等により、観光客への受入体制の充実が十分に図られていないことなどにより、本市観光への不満・不便を感じる方が相対的に多かったことなどによるものと考えられる。 R6年度の取組状況としては、稼ぐインタープリターの育成やボランティアガイドによるまち歩きガイドツアーに取り組むとともに、鹿児島市観光案内所(天文館)や中央駅総合観光案内所等の一体的な運用や観光案内板の板面の一部更新等、観光案内機能の強化に取り組んだ。ユニバーサルツーリズムの推進については、受入研修やガイドブックの作成などを行うとともに、旅行商品の造成を促進した。仙巖園駅については、経済団体や県などと連携した取組を促進するとともに、新駅開業を記念したイベントを実施した。 これらの取組により、観光客受入体制の充実を図った。</p>		<p>ひとが集うまちなか環境の充実を図るため、引き続き、市民ぐるみのおもてなし、ユニバーサルツーリズムの推進、観光案内機能の強化など、観光客受入体制の充実に取り組むとともに、仙巖園駅開業後の磯地区の活性化や交流人口の拡大に向け、仙巖園駅前広場の整備を進める。</p>	<p>KPIについては、タクシーの減車やバスの減便など、観光関連業界の人手不足等により、観光客への受入体制の充実が十分に図られていないこと等から、本市観光への不満・不便を感じる方が相対的に多かったことなどにより、あまり達成されていない。全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある。</p> <p>施策の推進にあたっては、地域との連携や現場の声の把握を行うとともに、観光関連データの利活用を通じて少人数でも効果的な受入体制を構築するほか、子ども連れ観光客への配慮、観光案内所の活用状況の検証などを行うべきである。</p> <p>また、KPIについては、現実的に達成困難なものとなっており、見直しを検討してはどうか。</p>	B																							
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値</th> <th>目標値 (R8)</th> <th>単位</th> <th>実績値 (R6)</th> <th>対目標値</th> <th>評価 (R6)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(R2) 46.3</td> <td>100.0</td> <td>%</td> <td>48.4</td> <td>3.9%</td> <td>c</td> </tr> </tbody> </table>	基準値	目標値 (R8)	単位	実績値 (R6)	対目標値	評価 (R6)	(R2) 46.3	100.0	%	48.4	3.9%	c																	
基準値	目標値 (R8)	単位	実績値 (R6)	対目標値	評価 (R6)																										
(R2) 46.3	100.0	%	48.4	3.9%	c																										
19	3 ひとが集うまちの魅力 を「みがく」	(2)ひとが集うまちなか環境の充実 ② まちなかのにぎわい創出・回遊性 向上	中心市街地の店舗のうち営業している 店舗の割合 カゴシマシティビューの乗客数 「センテラス天文館(広場)」でのイベントの 年間開催日数 「かごりん」の年間利用回数	<p>KPIについては、十分に達成されている。 R6年度の取組状況としては、商店街等が実施するにぎわいの創出につながるイベントへの助成を行い、まちなかのにぎわいづくりを図った。また、高見馬場交差点歩道等にポケットパークを設置する社会実験、天文館通電停前アーケード整備支援等、まちなかめぐりの仕掛けづくりの取組を推進した。さらに、加治屋町1番街区の市街地再開発事業に係る都市計画決定やいづろ交差点周辺地区における「市街地総合再生基本計画」の作成、補助金の交付等、再開発等の取組を促進した。加えて、市電・市バスの運行情報を把握できるロケーションシステムの運用、スマートフォンアプリを活用したデジタルチケットの販売、市電・市バス・桜島フェリー運賃におけるタッチ決済の運用等、モビリティサービスのスマート化の取組を推進した。</p>		<p>まちなかのにぎわいの創出につながるイベント開催等に取り組む商店街等への支援や、鹿児島中央駅から天文館、本港区、さらに鹿児島駅までのエリアにおいて、来街者の様々な消費行動やまちの魅力の気付きにつなげ、にぎわいとゆとりある都市空間の創出を目指す歩いて楽しめるまちづくりなど、これまでの取組を引き続き進める。また、移動の利便性を高め、回遊性向上に寄与するロケーションシステムやデジタルチケット、タッチ決済、「かごりん」等の利活用を図る取組について、引き続き促進する。 これらの取組を通して、まちなかのにぎわい創出・回遊性向上を図る。</p>	<p>KPIについては、まちなかのにぎわい創出・回遊性向上に向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。</p> <p>なお、施策の推進にあたっては、中心市街地の均衡ある再開発を進め、回遊性と満足度の向上を図るとともに、実際の人流データの把握し、検証することも検討していただきたい。</p>	A																							
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値</th> <th>目標値 (R8)</th> <th>単位</th> <th>実績値 (R6)</th> <th>対目標値</th> <th>評価 (R6)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(R2) 89.4</td> <td>91.2</td> <td>%</td> <td>90.0</td> <td>33.3%</td> <td rowspan="4">a</td> </tr> <tr> <td>(R2) 9.0</td> <td>27.4</td> <td>万人</td> <td>37.3</td> <td>153.8%</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>206</td> <td>日 (毎年度)</td> <td>349</td> <td>169.4%</td> </tr> <tr> <td>(R4) 160,728</td> <td>203,000</td> <td>回</td> <td>176,771</td> <td>38.0%</td> </tr> </tbody> </table>	基準値	目標値 (R8)	単位	実績値 (R6)	対目標値	評価 (R6)	(R2) 89.4	91.2	%	90.0	33.3%	a	(R2) 9.0	27.4	万人	37.3	153.8%	-	206	日 (毎年度)	349	169.4%	(R4) 160,728	203,000	回	176,771	38.0%		
基準値	目標値 (R8)	単位	実績値 (R6)	対目標値	評価 (R6)																										
(R2) 89.4	91.2	%	90.0	33.3%	a																										
(R2) 9.0	27.4	万人	37.3	153.8%																											
-	206	日 (毎年度)	349	169.4%																											
(R4) 160,728	203,000	回	176,771	38.0%																											

適応戦略1 ひと・まちを多彩に「つなぐ」

<概要>
 (1) 評価 (KPI)
 a : 十分に達成されている
 b : 概ね達成されている
 c : あまり達成されていない

(2) 検証会議の意見
 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである
 B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある
 C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

No.	適応戦略	主な施策	重要業績評価指標 (KPI)	KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価		検証会議の意見	評価
				施策の進捗状況等 (R6)	今後の方向性(考え方)		
20	4 ひと・まちを多彩に「つなぐ」	(1) 人口減少・少子高齢化を見据えた持続可能なまちづくりの推進 ① 都市のコンパクト化と交通ネットワークの形成	都市機能誘導区域内の大規模小売店舗(1,000㎡以上)の割合 公共交通の利用者数	KPIIについては、「都市機能誘導区域内の大規模小売店舗(1,000㎡以上)の割合」は十分に達成されている。「公共交通の利用者数」は実績値がR5年度のものとなるため、評価対象外とした。 R6年度の取組状況としては、立地適正化計画は、かごしまコンパクトなまちづくりプランの推進に向けて、推進協議会や推進庁内会議を開催し、施策の進捗管理を行った。 公共交通ビジョンの推進については、学識経験者や交通事業者、行政等で構成するビジョン協議会を開催し、施策の進捗管理を行った。 公共交通不便地等における交通手段の確保については、公共交通不便地において、コミュニティバス等の運行を継続するとともに、路線バスが廃止された地域において乗合タクシーの運行を継続し、地域住民の交通手段を確保した。また、公共交通不便地における持続可能な交通手段の調査検討のため、谷山地域においてAIオンデマンド交通の有償の実証実験を実施したほか、地域住民の意向調査等を行った。 ICTを活用した利用しやすい公共交通の推進については、谷山地域においてAIオンデマンド交通の有償の実証実験を実施したほか、タクシー事業者等と連携し、配車アプリを活用した相乗りタクシー実証実験を実施した。 これらの取組により、都市のコンパクト化と交通ネットワークの形成の推進が図られた。	立地適正化計画に基づくまちづくりの推進に向けては、かごしまコンパクトなまちづくりプランの実効性を確保するため、推進協議会や推進庁内会議を開催し、届出対応等による一定規模以上の住宅の建築等の動向把握を行うとともに、誘導施策の進捗管理等を行い、プランの着実な推進を図る。 公共交通ビジョンの推進に向けては、引き続き公共交通ビジョン協議会を開催するとともに、新たに専門部会を設置し、利便増進実施計画の策定や公共交通ビジョンの改定に向けた検討等を行う。 公共交通不便地等における交通手段の確保に向けては、引き続きコミュニティバスや乗合タクシー等を運行するとともに、公共交通不便地におけるAIオンデマンド交通の実証実験や地域住民の意向調査等を踏まえ、地域の実情に応じた交通手段の見直し方針等の作成を行う。また、路線バスが廃止された地域において、乗合タクシーや廃止路線代替バスの運行を行うなどの取組を継続する。 ICTを活用した利用しやすい公共交通の推進に向けては、引き続きバスロケーションシステムの運用を継続するとともに、AIオンデマンド交通の実証実験等を踏まえた調査検討を行う。	KPIIについては、都市のコンパクト化と交通ネットワークの形成に向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、コミュニティバスや乗合タクシーの運行計画では、意向調査の結果も参考に、今後とも、地元住民へ丁寧な説明を行うほか、市民への広報にも注力していただきたい。	A
21	4 ひと・まちを多彩に「つなぐ」	(1) 人口減少・少子高齢化を見据えた持続可能なまちづくりの推進 ② ストックマネジメントの強化	公共施設配置適正化計画に基づく事業完了施設数 危険空き家の解体への助成件数	KPIIについては、概ね達成されている。 R6年度の取組状況としては、公共施設配置適正化計画に基づく、大規模改修等の事業が9施設で完了したほか、空き家等の対策の強化に取り組み、危険空き家の解体25件の助成を行った。 多様な居住ニーズに対応する住環境の形成を図るために、庁内の推進委員会を開催し、住生活基本計画の施策を推進するとともに、「鹿児島市居住支援協議会」を設立し、相談窓口を設置した。市営住宅については、建替えにおいてバリアフリーに配慮するとともに、敷地の有効活用を図った。また、民間住宅については、耐震改修工事やリフォーム工事の助成等を行った。	公共施設等の計画的な更新・長寿命化については、財政負担の軽減・平準化を図るため、公共施設配置適正化計画に基づく事業を計画的に実施するとともに、空き家等対策の強化については、空き家等対策計画に基づき取り組む。 多様な居住ニーズに対応する住環境の形成については、庁内の推進委員会を開催し、住生活基本計画の施策を推進する。また、市営住宅の建替えや改善にあわせて子育て仕様住戸等を整備するとともに、余剰地の早期活用を図る。民間住宅については、引き続き補助等の取組を進めることで良質なストック形成の促進を図る。	KPIIについては、ストックマネジメントの強化に向けて、概ね達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、空き家の解体について、引き続き、助成制度の周知を進めるほか、子育て仕様住戸の整備にあたり、若年層へのアンケートを行うなどニーズの把握を行い、居住環境の充実を図っていただきたい。	A
22	4 ひと・まちを多彩に「つなぐ」	(1) 人口減少・少子高齢化を見据えた持続可能なまちづくりの推進 ③ 住宅団地の活性化	住宅団地の活性化に向けて地域主体で実施したまちづくり活動の件数	KPIIについては、十分に達成されている。 R6年度の取組状況としては、「かごしま団地みらい創造プラン」に基づき、対象の29団地に対して、地域住民等との意見交換や、具体的な支援に取り組んでおり、5団地においては、地域主体によるまちづくり活動へつなげることができた。	団地活性化の推進については、引き続き、庁内での連携を図りながら、対象団地における地域主体のまちづくりの実現に向けて、意見交換会、実践セミナー、ワークショップの運営支援、職員や専門家による助言等の支援を行う。また、5団地以外については、団地の魅力創出のための新たな人材発掘・育成は容易でない現状があるため、事業手法の見直しを検討する。	KPIIについては、住宅団地の活性化に向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、先事例を参考にしつつ、団地間の連携を図り、若い世代を含めたワークショップ等で議論を深めるほか、従来の手法が適用できない団地に対しては、新たな手法での支援を検討し、それぞれの団地の実情に応じた柔軟な対応を行っていただきたい。	A

No.	適応戦略	主な施策	重要業績評価指標 (KPI)	KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価		検証会議の意見	評価																						
				施策の進捗状況等 (R6)	今後の方向性(考え方)																								
23	4 ひと・まちを多彩に「つなぐ」	(2) 互いに支え合う温もりのある地域社会の形成 ① 住民主体の地域づくりの促進 <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値</th> <th>目標値 (R8)</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(R2) 2,928</td> <td>3,100</td> <td>団体</td> </tr> <tr> <td>(R3) 52.1</td> <td>52.9</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>8</td> <td>団体 (毎年度)</td> </tr> </tbody> </table>	基準値	目標値 (R8)	単位	(R2) 2,928	3,100	団体	(R3) 52.1	52.9	%	-	8	団体 (毎年度)	地域コミュニティ協議会の活動への参加団体数 町内会加入率 デジタルツール活用支援講座の受講後にサービスを活用した団体数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>実績値 (R6)</th> <th>対目標値</th> <th>評価 (R6)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3,196</td> <td>155.8%</td> <td rowspan="3">b</td> </tr> <tr> <td>51.1</td> <td>-125.0%</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>137.5%</td> </tr> </tbody> </table>	実績値 (R6)	対目標値	評価 (R6)	3,196	155.8%	b	51.1	-125.0%	11	137.5%	KPIについては、概ね達成されている。町内会加入率については、減少傾向にあり、加入率が低い単身世帯の増加に伴う総世帯数の増加、転入者等の未加入や既存会員の退会等が要因として考えられ、あまり達成されていない。R6年度の取組状況として、地域コミュニティ協議会については、コミュニティ意見懇話会(R4)の報告書を踏まえ、本市が推奨する取組を推進するための新たな補助制度を新設した。また、町内会については、各種加入促進及び負担軽減施策に取り組むとともに、各種補助制度を統合し手続きの簡素化を図ったほか、新たにデジタル活用促進補助金を新設した。さらに、デジタルツール活用支援講座の開催や町内会加入促進動画を活用した若年層へのSNS広告により、多様な世代が地域活動に参加・参画しやすくなるための支援を行った。5地域においては、R4年度に住民とともに策定した計画に基づき、イベントの開催や域内周遊の仕組みづくりなど個性豊かな地域づくりに向けた取組を実施するとともに、これまでの取組の課題や効果等を踏まえ、プランの改訂を行った。	R7年度以降の取組として、地域コミュニティ協議会については、引き続き、各協議会における事業の見直しや地域団体等との新たな連携等を推進し、地域の実情にあった更なる発展と充実に向けた取組を支援することにより、活力ある地域コミュニティづくりの推進を図る。また、町内会についても、引き続き、転入・転居等、町内会加入のきっかけとなる場における加入促進を図るほか、町内会におけるデジタルを活用した情報発信、運営の効率化による役員等の負担軽減や活動の見直し等の取組を支援することにより、多様な世代が地域活動に参加・参画しやすくなる仕組みづくりを推進する。5地域においては、R6年度の取組を検証し、より効果的な取組に昇華させることで、さらなる地域の活性化を図る。	KPIについては、住民主体の地域づくりの促進に向けて、概ね達成されている。全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある。施策の推進にあたっては、若い世代が参加しやすい環境整備や、デジタル活用による役員負担の軽減を図るとともに、加入率を上げた町内会の事例を参考にした取組の推進や、地元企業との連携など活動の工夫を行うほか、子どもが参加できる活動の充実など、世代を超えた地域コミュニティの形成を目指すべきである。	B
基準値	目標値 (R8)	単位																											
(R2) 2,928	3,100	団体																											
(R3) 52.1	52.9	%																											
-	8	団体 (毎年度)																											
実績値 (R6)	対目標値	評価 (R6)																											
3,196	155.8%	b																											
51.1	-125.0%																												
11	137.5%																												
24	4 ひと・まちを多彩に「つなぐ」	(2) 互いに支え合う温もりのある地域社会の形成 ② 市民との協働の推進 <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値</th> <th>目標値 (R8)</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(R2) 482</td> <td>839</td> <td>件</td> </tr> </tbody> </table>	基準値	目標値 (R8)	単位	(R2) 482	839	件	市民活動団体等との協働事業数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>実績値 (R6)</th> <th>対目標値</th> <th>評価 (R6)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1,018</td> <td>150.1%</td> <td>a</td> </tr> </tbody> </table>	実績値 (R6)	対目標値	評価 (R6)	1,018	150.1%	a	KPIについては、十分に達成されている。R6年度の取組状況としては、「市民参画の推進」については、市民等へパブリックコメント実施の周知を行うとともに、市長と語る会を実施したほか、まちかどコメンテーターの人数を増やし、市民の声を聴く機会を充実させた。また、大学や中学校において、市政に関する講義等を実施した。「市民やNPO等との連携及び活動の促進」については、市民活動団体の基盤強化を図るため、人材育成や多様な主体との連携を促進する講座を開催したほか、資金面での支援や活動に対する助言等を行った。また、職員の意識向上のための研修会を実施した。	引き続き、「市民参画の推進」及び「市民やNPO等との連携及び活動の促進」のための取組を継続していく。	KPIについては、市民との協働の推進に向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。なお、施策の推進にあたっては、引き続き、地域コミュニティ間の交流も進めていただきたい。	A										
基準値	目標値 (R8)	単位																											
(R2) 482	839	件																											
実績値 (R6)	対目標値	評価 (R6)																											
1,018	150.1%	a																											
25	4 ひと・まちを多彩に「つなぐ」	(2) 互いに支え合う温もりのある地域社会の形成 ③ 多文化共生の推進 <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値</th> <th>目標値 (R8)</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(R2) 1,938</td> <td>3,200</td> <td>人</td> </tr> </tbody> </table>	基準値	目標値 (R8)	単位	(R2) 1,938	3,200	人	多文化共生事業への参加者数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>実績値 (R6)</th> <th>対目標値</th> <th>評価 (R6)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3,057</td> <td>88.7%</td> <td>a</td> </tr> </tbody> </table>	実績値 (R6)	対目標値	評価 (R6)	3,057	88.7%	a	KPIについては十分に達成されている。R6年度の取組状況としては、R4年度に策定した多文化共生推進指針に基づき、市職員向けの研修会や市ホームページ自動翻訳機能、国際交流センターでの外国人相談デスクの運営等、多文化共生の地域づくりの推進を図った。	引き続き、各種事業による国際相互理解の推進、情報の多言語化、相談体制の充実など、多文化共生の地域づくりの推進を図る。	KPIについては、多文化共生の推進に向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。なお、施策の推進にあたっては、職員が参加しやすい研修の実施や、外国人当事者の声を反映した環境の整備づくりに努めるほか、食・文化・言語などの交流を通じた多文化共生の理解促進を図るなど、誰もが暮らしやすい地域社会の実現に向けて取り組んでいただきたい。	A										
基準値	目標値 (R8)	単位																											
(R2) 1,938	3,200	人																											
実績値 (R6)	対目標値	評価 (R6)																											
3,057	88.7%	a																											
26	4 ひと・まちを多彩に「つなぐ」	(3) 国内外の都市との連携・交流の推進 ① 国際交流の推進 <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値</th> <th>目標値 (R8)</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(R2) 1,367</td> <td>2,120</td> <td>人</td> </tr> </tbody> </table>	基準値	目標値 (R8)	単位	(R2) 1,367	2,120	人	国際交流事業への参加者数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>実績値 (R6)</th> <th>対目標値</th> <th>評価 (R6)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3,184</td> <td>241.3%</td> <td>a</td> </tr> </tbody> </table>	実績値 (R6)	対目標値	評価 (R6)	3,184	241.3%	a	KPIについては十分に達成されている。R6年度の取組状況としては、姉妹都市等との多面的な交流の推進や、次代を担う国際性豊かな人材育成に取り組んだ。このほか、国際交流センターを中心に国際理解等に関する各種事業・イベントを実施し、市民主体の国際交流活動の促進を図った。また、ネクスト「アジア・鹿児島」イノベーション戦略は、戦略会議を開催して、進捗管理等を行った。	引き続き、市民、関係団体などと連携・協働した、さまざまな都市との多面的な交流を実施するとともに、次代を担う国際性豊かな人材育成や、国際交流センターを中心に国際交流・国際理解・国際協力の推進を図る。また、ネクスト「アジア・鹿児島」イノベーション戦略については、戦略会議を開催して、進捗管理を行い、同戦略の推進を図る。	KPIについては、国際交流の推進に向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。なお、施策の推進にあたっては、イベント等の実施が対面とオンラインで効果的な場合は、ハイブリッドでの実施も検討していただきたい。また、KPIについては、実績値が目標値を大幅に上回っているため、今後、目標値の修正についても検討されたい。	A										
基準値	目標値 (R8)	単位																											
(R2) 1,367	2,120	人																											
実績値 (R6)	対目標値	評価 (R6)																											
3,184	241.3%	a																											
27	4 ひと・まちを多彩に「つなぐ」	(3) 国内外の都市との連携・交流の推進 ② 国内の都市との連携・交流の推進 <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値</th> <th>目標値 (R8)</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(R2) 30</td> <td>35</td> <td>事業</td> </tr> </tbody> </table>	基準値	目標値 (R8)	単位	(R2) 30	35	事業	連携中枢都市圏における連携事業数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>実績値 (R6)</th> <th>対目標値</th> <th>評価 (R6)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>38</td> <td>160.0%</td> <td>a</td> </tr> </tbody> </table>	実績値 (R6)	対目標値	評価 (R6)	38	160.0%	a	KPIについては、十分に達成されている。R6年度の取組状況としては、連携中枢都市圏の推進については、かごしま連携中枢都市圏ビジョンの適切な進捗管理を行うことにより、圏域内の連携の着実な推進が図られた。また、多彩な都市との連携・交流の推進については、各種連携事業を進めるとともに、新たに、滋賀県彦根市と交流連携協定を締結し、両市のさらなる発展に寄与することを目的に、交流に取り組むこととした。	第2期かごしま連携中枢都市圏ビジョンに基づき、引き続き連携事業の効果的な実施に取り組むとともに、新たな連携事業の検討・協議を行い、更なる圏域経済の活性化や公共サービスの拡充を目指し、連携中枢都市圏の取組の着実な推進を図る。また、連携都市との交流を引き続き進めるとともに、その他の都市との新たな連携・交流の可能性について引き続き検討を行う。	KPIについては、国内の都市との連携・交流の推進に向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。なお、施策の推進にあたっては、連携中枢都市圏での事業推進では、圏域内住民の参加状況の把握に努めるとともに、連携都市以外との新たな交流の可能性も検討するほか、県内外に複数の連携都市が存在する中、それぞれの位置付けの整理や、市民への広報の充実に取り組んでいただきたい。	A										
基準値	目標値 (R8)	単位																											
(R2) 30	35	事業																											
実績値 (R6)	対目標値	評価 (R6)																											
38	160.0%	a																											

No.	適応戦略	主な施策	重要業績評価指標 (KPI)	KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価		検証会議の意見	評価																		
				施策の進捗状況等 (R6)	今後の方向性(考え方)																				
28	4 ひと・まちを多彩に「つなぐ」	(4) 移住の促進 <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値</th> <th>目標値 (R8)</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(R2) 79</td> <td>800</td> <td>件 (5年間)</td> </tr> <tr> <td>(R4) 110</td> <td>360</td> <td>件 (3年間)</td> </tr> </tbody> </table>	基準値	目標値 (R8)	単位	(R2) 79	800	件 (5年間)	(R4) 110	360	件 (3年間)	移住セミナー等における延べ面談件数 オンライン移住セミナー等における延べ面談件数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>実績値 (R6)</th> <th>対目標値 (R6)</th> <th>評価 (R6)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>734</td> <td>91.8%</td> <td>a</td> </tr> <tr> <td>120</td> <td>33.3%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	実績値 (R6)	対目標値 (R6)	評価 (R6)	734	91.8%	a	120	33.3%		KPIについては、十分に達成されている。 R6年度の取組状況としては、移住支援コーディネーターを増員し、移住情報の提供や相談・受入体制の強化を図ったほか、移住支援制度の充実を図るなど、本市への移住促進に努めた。	引き続き、本市の魅力発信や相談対応の充実を図るなど、移住希望者への多様なニーズに対応した支援に取り組み、本市への移住を促進する。	KPIについては、移住の促進に向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、移住支援コーディネーターを中心に、移住希望者のニーズ把握と移住後のフォロー体制の充実を図るとともに、新たな移住要因の検討や、定住に至らなかった事例のアンケート調査による政策評価・改善を図っていただきたい。	A
基準値	目標値 (R8)	単位																							
(R2) 79	800	件 (5年間)																							
(R4) 110	360	件 (3年間)																							
実績値 (R6)	対目標値 (R6)	評価 (R6)																							
734	91.8%	a																							
120	33.3%																								

重点戦略

<概要>
 (1) 評価 (KPI)
 a:十分に達成されている
 b:概ね達成されている
 c:あまり達成されていない

(2) 検証会議の意見
 A:引き続き、現状の取組を推進すべきである
 B:全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある
 C:取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

No.	重点戦略	主な施策	重要業績評価指標 (KPI)	KPIや具体的な取組の進捗を踏まえた施策全体の評価		検証会議の意見	評価	
				施策の進捗状況等 (R6)	今後の方向性(考え方)			
29	(1)「世界に選ばれるまち KAGOSHIMA」推進プロジェクト	(1)インバウンド対応の強化 (2)MICEの積極的な誘致	外国人宿泊観光客数 1人1泊当たりの外国人観光消費額 かごしま市観光ナビの外国語ページへのアクセス件数	実績値 (R6) 対目標値 評価 (R6)	KPIについては、概ね達成されている。 鹿児島空港国際線の再開やクルーズ船の寄港数の増加などにより、外国人宿泊観光客数が増加したが、1人1泊当たりの外国人観光消費額については、爆買いなどの大量購入が減少するといった消費行動の変化が影響しているものと考えられる。 R6年度の取組状況としては、インバウンド対応の強化については、台湾・香港・韓国個人旅行者向けのデジタルプロモーションや広域連携による観光プロモーション等を展開したほか、夜間等における観光コンテンツの情報発信等を行った。また、ムスリムやベジタリアン等食の多様性に対応するための支援、飲食店や宿泊施設等の多言語対応や情報発信についての支援、マーケティング・マネジメント等を担う高度な観光人材の育成、クルーズ船の受入体制強化や寄港地観光の推進に取り組んだ。MICEの積極的な誘致については、大都市圏や台湾での誘致セールスや開催補助金を交付したほか、修学旅行のさらなる誘致を図るため、本市の歴史・文化をテーマとした探究学習プログラムの達成を行った。	“世界に選ばれるまち KAGOSHIMA”の推進を図るため、引き続き、広域連携によるプロモーションや多言語での情報発信、大規模国際大会を見据えた新たなキャンプ誘致、インバウンド対応人材の育成、寄港地観光の推進など、インバウンド対応の強化やMICEの積極的な誘致に向けた取組を進める。	KPIについては、インバウンド対応の強化及びMICEの積極的な誘致に向けて、概ね達成されている。全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある。 施策の推進にあたっては、インバウンドの増加に対応するため、オーバートーリズムや人手不足への対策に早期に取り組むとともに、観光客の特性変化に応じた事業展開や、広域連携による魅力的な観光PRの工夫を進めるほか、観光関連データの利活用の促進や、外国人観光客向けの体験型コンテンツの充実、滞在促進策にも取り組むべきである。	B
30	(2)「次代につながるふるさと担い手」創出プロジェクト	(1)ふるさと教育の推進と大学との連携強化	「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した児童生徒の割合の全国との比較 次世代を切り拓く青少年育成事業に関するSNSの閲覧数 大学との新規連携事業・取組数	実績値 (R6) 対目標値 評価 (R6)	KPIIについて、「次世代を切り拓く青少年育成事業に関するSNSの閲覧数」と「大学との新規連携事業・取組数」は、十分に達成されている。「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した児童生徒の割合と全国との比較」は実績値がR5年度のものとなるため、評価対象外とした。 地域人材等の授業への参画や地域行事・素材といった地域教材の授業での活用、職場体験活動については、各学校で工夫し、活動内容の充実を図りながら実施することができた。 「かごしま創志塾」「ジュニア創志塾」では、国内外で活躍している地元企業の経営者や郷土出身の著名人等による講話、郷土に関するフィールドワーク、ALTとの交流などの実践的体験活動や学習活動を通して、郷土教育やグローバルな視野を広げる学習の充実が図られた。また、オンラインでの参加を可能にした同窓会を開催することで、ネットワーク体制が再構築され、「ふるさと・鹿児島」への誇りと愛着心の持続化が図られた。 「まちづくり提言の機会創出」については、まちづくり人材育成連携事業の中で、2大学(鹿児島大学、志学館大学)、届けよう！わたしたちが考えるかごしま市政事業の中で、3中学校(甲東中、清水中、河頭中)の学生が、学校内で発表するとともに、市長に対して提言発表・意見交換を行い、まちづくり提言の機会を創出することができた。 各大学との連携事業・取組については、各大学の特色や専門性、若い世代のアイデアを生かした取組を実施することができた。また、学生が地域に関わり、まちづくりの担い手としての興味・関心を持ってもらうための機会を提供した。	郷土教材の活用や地域人材等の授業への参画、職場体験活動については、小学校から高等学校までの各ステージに応じた教育活動をさらに充実させていく。併せて、「ふるさと鹿児島」への誇りと愛着の心を育む取組を引き続き進める。また、総合的な学習(探究)の時間については、鹿児島市のモデルを作成し、各学校の取組がより一層、児童生徒が主体となった探究的な活動となるようリーフレットを作成し、改善を進める。 「かごしま創志塾」「ジュニア創志塾」については、引き続き魅力あるプログラムを提供するとともに、関係機関・団体等と連携し、深まりのあるプログラムの充実に努める。また、グループ活動におけるタブレット端末を活用した意見の交流や集約を行い、学習の深化を図る。さらに、卒業生を主体的な活動の場で活用に向け、定期的なSNS等を活用した情報発信を行うとともに、卒業生相互のつながりづくりに向け、オンラインを活用したハイブリッドでの同窓会を実施する。	KPIIについては、ふるさと教育の推進と大学との連携強化に向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、市内大学等での市政に関する講義等を通じた人材育成を継続するとともに、地域行事への児童生徒の参加促進には、子どもや保護者の関心を高める工夫を行っていただきたい。 また、KPIIについては、一つの案として、全国との比較より前回の比較を重視したKPIの設定を検討してはどうか。	A
31	(2)「次代につながるふるさと担い手」創出プロジェクト	(2)関係人口の創出・拡大	SNSフォロワー数(PRキャラクター・ゲニョンの各公式アカウントの合計) 首都圏等における体験機会となるイベント等への参加者数	実績値 (R6) 対目標値 評価 (R6)	KPIIについては、十分に達成されている。 R6年度の取組状況としては、民間事業者等との連携をしながら、SNSや各種イベント等の活用により、本市の魅力を生かして発信し、都市イメージの向上やシビックプライドの醸成、首都圏の若者等との関係性の深化を図った。	引き続き、市民や事業者、本県出身者等と連携を深めながら、首都圏等の若年層へのターゲティング広告や、SNS、各種イベント等の効果的な活用により、本市イメージの向上や関係人口の創出につなげる。	KPIIについては、関係人口の創出・拡大に向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、SNS等を活用した若者への情報発信を強化し、関係人口の創出・拡大につなげるとともに、その効果検証と定義の整理を行うほか、マグネヨンの活用や子ども向けの工夫を通じて、地域への関心を高める取り組みを行っていただきたい。	A

No.	重点戦略	主な施策	重要業績評価指標 (KPI)	KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価		検証会議の意見	評価																		
				施策の進捗状況等 (R6)	今後の方向性(考え方)																				
32	(3) “デジタル技術で豊かなまち”創造プロジェクト	(1) 地域産業の生産性向上 <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値</th> <th>目標値 (R8)</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(R2)</td> <td>1</td> <td>15 件 (5年間)</td> </tr> <tr> <td>(R2)</td> <td>16</td> <td>65 件 (5年間)</td> </tr> </tbody> </table>	基準値	目標値 (R8)	単位	(R2)	1	15 件 (5年間)	(R2)	16	65 件 (5年間)	ICT関連企業の立地協定件数 スマート農林水産業関連技術の導入件数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>実績値 (R6)</th> <th>対目標値</th> <th>評価 (R6)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>14</td> <td>93.3%</td> <td rowspan="2">a</td> </tr> <tr> <td>62</td> <td>95.4%</td> </tr> </tbody> </table>	実績値 (R6)	対目標値	評価 (R6)	14	93.3%	a	62	95.4%	KPIについては、十分に達成されている。 R6年度の取組状況としては、中小企業のICT等活用に対する支援として、専門家の派遣やICTツール導入やECサイトの立ち上げ、デジタル広告を活用した広告宣伝に係る経費等に対する助成を行った。 また、ICT関連企業の立地に関しては、市内や首都圏のICT企業を訪問し、本市の立地環境や補助制度等の説明を行ったほか、プレスリリース配信サービス(PRTIMES)や、首都圏における展示会への出展により、本市の立地環境や補助制度をPRし、ICT関連企業の立地に取り組んだ。 ICT関連産業の振興にもつながるよう、クリエイティブ産業創出拠点施設マークメイザンにおけるエンジニア向けのセミナーやWEBクリエイター等の交流・マッチングイベントの開催等を通じて、クリエイティブ人材の育成やコミュニティ形成に取り組んだ。 さらに、若い世代のICT関連産業に関する意識啓発と市内ICT関連企業の認知度向上が図られ、将来的なICT人材の育成と地元定着の促進につながった。 スマート農林水産業の推進については、研修会の開催や現地でのスマート農業技術の実証に取組み、農業者のスマート農業への理解促進と先端機器の導入が図られた。	引き続き、中小企業のICT等活用に対する支援として、専門家の派遣やICTツール導入助成、ECサイトの立ち上げ、デジタル広告を活用した広告宣伝に係る経費等に対する助成を行う。 ICT関連企業の立地に関しては、引き続き積極的な企業訪問等を行い、補助制度や都市の魅力など本市の強みをPRし、企業立地のさらなる推進を図るとともに、フォロー訪問による情報交換等を通じて状況把握や雇用確保への支援を行う。また、連携中枢都市圏の構成市及び県との連携を図りながら企業立地を推進する。 また、ICT関連産業の振興にもつながるよう、マークメイザンにおける取組を継続することにより、引き続き、人材育成に取り組むほか、エンジニアやクリエイター等のコミュニティを生かしたマッチング機会の提供等に取り組んでいく。 スマート農林水産業の推進については、研修会の開催や先進地の情報取集等に努めるほか、生産者等のほ場において、スマート農業技術の実証を行い、効果が検証された機器の導入支援を行う。	KPIについては、地域産業の生産性向上に向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、中小企業へのICT導入支援やスマート農林水産業の推進では、財政面だけでなく、ソフト面を含むきめ細かな指導、支援を続けていただきたい。	A	
基準値	目標値 (R8)	単位																							
(R2)	1	15 件 (5年間)																							
(R2)	16	65 件 (5年間)																							
実績値 (R6)	対目標値	評価 (R6)																							
14	93.3%	a																							
62	95.4%																								
33	(3) “デジタル技術で豊かなまち”創造プロジェクト	(2) 市民生活の利便性向上 <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値</th> <th>目標値 (R8)</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(R元)</td> <td>小6 -1.1 中3 +0.4</td> <td>小6 +2.0 中3 +2.0</td> <td>ポイント</td> </tr> <tr> <td>(R2)</td> <td>29,441</td> <td>43,000</td> <td>件</td> </tr> </tbody> </table>	基準値	目標値 (R8)	単位	(R元)	小6 -1.1 中3 +0.4	小6 +2.0 中3 +2.0	ポイント	(R2)	29,441	43,000	件	電子申請利用件数 授業でコンピュータなどのICTを「ほぼ毎日」使用したと回答した児童生徒の割合の全国との比較 <table border="1"> <thead> <tr> <th>実績値 (R6)</th> <th>対目標値</th> <th>評価 (R6)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小6 +6.4 中3 -5.7</td> <td>-69.7%</td> <td rowspan="2">b</td> </tr> <tr> <td>118,828</td> <td>659.2%</td> </tr> </tbody> </table>	実績値 (R6)	対目標値	評価 (R6)	小6 +6.4 中3 -5.7	-69.7%	b	118,828	659.2%	KPIについては、概ね達成されている。 行政手続のオンライン化については、計画的に新たなオンライン化を推進し、利用件数に関する目標値も十分に達成されている。 教育の情報化の推進についても、対目標値ではマイナスになっているが、昨年度の実績値と比較すると向上している。R6年度の取組状況としては、ICT支援員等による授業支援や指導主事等による校内研修等に加え、「校務における生成AI活用事例集」等を作成・配布し、教員のICT活用指導能力及び児童生徒の情報活用能力の向上を図った。 令和7年度に県電子申請システムの共同運営が終了するため、同年度中に新たな汎用電子申請システムへリニューアルを行い、利用者が使いやすいオンライン手続の充実を図る。 授業におけるICT活用率が上がり、タブレット端末持ち帰りによる家庭学習の質の向上も図られていることから、今後も引き続き、児童生徒が情報機器端末を日常的に活用していけるよう、指導主事やICT支援員等による支援や研修の充実を図る。	KPIについては、市民生活の利便性向上に向けて、概ね達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、学校規模による教育格差の防止と、ICT導入に伴う情報・メディアリテラシー教育の充実を図っていただきたい。	A
基準値	目標値 (R8)	単位																							
(R元)	小6 -1.1 中3 +0.4	小6 +2.0 中3 +2.0	ポイント																						
(R2)	29,441	43,000	件																						
実績値 (R6)	対目標値	評価 (R6)																							
小6 +6.4 中3 -5.7	-69.7%	b																							
118,828	659.2%																								
34	(3) “デジタル技術で豊かなまち”創造プロジェクト	(3) デジタル基盤整備 <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値</th> <th>目標値 (R8)</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(R4)</td> <td>36</td> <td>53 項目</td> </tr> </tbody> </table>	基準値	目標値 (R8)	単位	(R4)	36	53 項目	「地方公共団体が優先的にオンライン化を推進すべき手続」の対応項目数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>実績値 (R6)</th> <th>対目標値</th> <th>評価 (R6)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>40.0</td> <td>23.5%</td> <td>b</td> </tr> </tbody> </table>	実績値 (R6)	対目標値	評価 (R6)	40.0	23.5%	b	KPIについては、概ね達成されている。 デジタル整備基盤のKPIについては、基準値であるR4までに既に68%の対応を完了していることあり、伸びとしては4項目にとどまった。 主な取組内容の項目は、国の方針のもと、市として対応を検討していくものである。マイナンバーカード含むマイナンバー制度に関しては、国の方針に対応しつつ、市としては出前トーク等での普及・市民理解の向上や、交付体制の整備につとめ、データ連携基盤に関しては、国が示すテーマに関し、情報収集や関係機関等との意見交換を行うなど、必要な対応をとれている。 国・県の方針や他都市の事例等について情報収集・対応をしつつ、マイナンバーカードについては出前トーク等の市独自の取組を継続し、データ連携基盤については、R8年度以降の本番運用が予定される公共サービスメッシュ(自治体内情報活用サービス)について、活用方針等検討していく。	KPIについては、デジタル基盤整備に向けて、概ね達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、データ連携基盤の構築では、これまでの都市OSが集約型のシステムであるのに対して、分散型のシステムになることから、セキュリティを含めた情報管理の徹底を意識しながら進めていただきたい。	A							
基準値	目標値 (R8)	単位																							
(R4)	36	53 項目																							
実績値 (R6)	対目標値	評価 (R6)																							
40.0	23.5%	b																							
35	(3) “デジタル技術で豊かなまち”創造プロジェクト	(4) デジタル人材の育成・確保 <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値</th> <th>目標値 (R8)</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>-</td> <td>240</td> <td>人 (3年間)</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>73</td> <td>人</td> </tr> </tbody> </table>	基準値	目標値 (R8)	単位	-	240	人 (3年間)	-	73	人	プログラミング体験セミナー参加人数 DX推進グループリーダーの育成人数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>実績値 (R6)</th> <th>対目標値</th> <th>評価 (R6)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>31.0</td> <td>12.9%</td> <td rowspan="2">a</td> </tr> <tr> <td>83</td> <td>113.7%</td> </tr> </tbody> </table>	実績値 (R6)	対目標値	評価 (R6)	31.0	12.9%	a	83	113.7%	KPIについては、十分に達成されている。 若い世代のICT関連産業に関する意識啓発と市内ICT関連企業の認知度向上が図られ、将来的なICT人材の育成と地元定着の促進につながった。 職員の人材育成についても、各種研修を実施し、行政デジタル化の促進につながった。 学生向けプログラミングセミナーなど、限られた財源のなかでの市政における優先度判断の結果、廃止となった事業もあるが、デジタル人材の育成・確保について、取組が必要な対象や実現可能で効果的な実施形態等の整理をしつつ、継続して取り組んでいく。	KPIについては、デジタル人材の育成・確保に向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、対象や実施形態を整理し、継続的に取り組むほか、プログラミング体験セミナーでは、オンライン形式の導入などにより参加機会の拡大と効率化を図っていただきたい。	A		
基準値	目標値 (R8)	単位																							
-	240	人 (3年間)																							
-	73	人																							
実績値 (R6)	対目標値	評価 (R6)																							
31.0	12.9%	a																							
83	113.7%																								
36	(3) “デジタル技術で豊かなまち”創造プロジェクト	(5) 誰一人取り残されないための取組 <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値</th> <th>目標値 (R8)</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(R4)</td> <td>488</td> <td>人 (3年間)</td> </tr> </tbody> </table>	基準値	目標値 (R8)	単位	(R4)	488	人 (3年間)	市民向け講座等の参加者数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>実績値 (R6)</th> <th>対目標値</th> <th>評価 (R6)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>560.0</td> <td>37.3%</td> <td>a</td> </tr> </tbody> </table>	実績値 (R6)	対目標値	評価 (R6)	560.0	37.3%	a	KPIについては、十分に達成されている。 R4から市民のICTリテラシー向上に向けて講習会等の取組を行ってきたが、講習会の運用形態の変更(出前講座への一部代替)により受講者が増えた。また、新たに個人のお困りごとに対応する相談会を実施した。 行政デジタル化を推進していく中で、「誰一人取り残されない」の実現を目指し、引き続き、市民のデジタルに対する意識向上・活用能力向上を図る。	KPIについては、誰一人取り残されないための取組に向け、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、市民のデジタル活用能力向上に向けた取り組みを継続するとともに、高齢者向け講習会では、より効果的な実施方法を研究するほか、子どもへのメディアリテラシー・人権教育の充実や、デジタルを苦手とする層への支援体制の整備にも取り組んでいただきたい。	A							
基準値	目標値 (R8)	単位																							
(R4)	488	人 (3年間)																							
実績値 (R6)	対目標値	評価 (R6)																							
560.0	37.3%	a																							